

# Dinosaur Topics

春期特別展「ポケモン化石博物館」

令和6年度「博物館の話題」

恐竜博物館の教育普及活動

写真で読む地球史 17「篠山層群」

春期特別展

# 「ポケモン化石博物館」

恐竜博物館では、令和6年3月20日から6月23日までの約3ヶ月間、春期特別展「ポケモン化石博物館」を開催しました。会期中、町内外から多くの方が訪れ、55,460人の観覧者で賑わいました。

この展覧会は、公益財団法人深田地質研究所の相場大佑博士（元三笠市立博物館）が総合監修を務め、株式会社ポケモンと三笠市立博物館、群馬県立自然史博物館、豊橋市自然史博物館、島根県立三瓶自然館の協力のもと、国立科学博物館と当館の主催で開催されました。

人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場するふしぎな生き物「ポケモン」には、カセキから復元されるポケモンがいくつか知られています（以下、「カセキポケモン」と呼びます。）。本展は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物

学を楽しく学んでいただくものとして企画されたものです。

展示は、「それぞれの世界のかせき研究」、「比べてみよう！カセキポケモンと古生物」、「かせき研究のこれまで・これから」で構成され、特に注目を集めたのは、「カセキポケモン」の実物大骨格想像模型や私たちの世界の化石標本たちです。アンモナイトやティラノサウルスの化石が展示され、化石の発掘から研究の手法なども紹介。ポケモンの世界の「カセキ博士」や、お手伝いの「発掘ピカチュウ」も登場し、子どもからおとなまで楽しめる内容となりました。観覧者からは、「ポケモンと似ている古生物っていたんだね」「とてもワクワクした。子どもが帰りがたがなくて困るほど楽しめました。」といった感想が寄せられました。

今回の特別展がきっかけで初めて恐竜博物館に来館された方も多く、御船町の化石や恐竜たちに目を向けていただく新たな機会となりました。



# 記念講演会



記念講演  
「ポケモン化石博物館」で学ぶ最新「古生物学」  
講師 相場 大佑 博士

令和6年3月20日、「ポケモン化石博物館」の総合監修をつとめる相場大佑博士（深田地質研究所 研究員）による記念講演会が御船町カルチャーセンターで開催され、県内外から268人が集まりました。

「ポケモン化石博物館」で展示されているアンモナイトや恐竜といった古生物に関する研究の成果について、クイズ等を交えて楽しくご紹介いただきました。参加者からは、「古生物は奥が深いことが実感でき、面白かった」「楽しみながら学ぶことができた」と、大変好評でした。

また、特別展会期中には「発掘ピカチュウ」が来館したり、「はらぺこベトベター」のリサイクルボックスが博物館に設置されたりと、とてもにぎやかで楽しい特別展となりました。



© 2026 Pokémon. © 1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。





## 夏期特別展「恐竜の脳力」



恐竜の脳力展の内覧会

恐竜博物館では、春期特別展に引き続き、令和6年7月20日から9月29日まで夏期特別展「恐竜の脳力」を開催しました。期間中、24,514人の来場者がありました。

本展は、福井県立大学の河部壮一郎教授の企画・監修によって制作された、福井県立恐竜博物館の巡回展です。

近年、X線CTスキャナーの恐竜研究への適用が盛んになり、これまで研究が難しかった、頭骨内部の構造にも光が当たるようになりました。コンピューターの処理速度の向上にとともに、3次元的な復元が比較的容易になり、CGや3Dプリンターで出力した模型など、分かりやすく伝えることもできるようになってきました。

この展覧会では、河部教授の研究成果に基づいて、プロジェクトマッピングを駆使して恐竜の頭部や脳について分かりやすく解説し、恐竜の脳に関する研究がどのようにして行われ、具体的にどのようなことが明らかになってきたのか?ということが紹介されました。

7月20日には、御船町カルチャーセンターにて河部教授による記念講演会が開催され、90人の参加がありました。「恐竜の脳を研究する」と題した講演会は大盛況で、子どもたちからもたくさんの質問が寄せられました。



恐竜の脳力展開催時の博物館玄関



恐竜の脳力展 2万人達成

## 音声ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入しました



「ポケット学芸員」は、展示に関する解説や動画をお手持ちのスマートフォン等で楽しむことができる無料のアプリです。全国で200を超える施設で導入されています（令和7年4月時点）。恐竜博物館では、古生物に興味をもち始めた方やお子様にもわかりやすい文章とし、1分程度のオリジナル解説動画も付けました。

また、「展示室で流れている映像に字幕を付けて欲しい」というご要望にお応えし、アプリ内で字幕付きの映像を視聴できるように改善しました（一部）。これまで知らなかったことや、新しく興味をもつ内容があるかもしれません。恐竜博物館へお越しの際には「ポケット学芸員」をぜひ活用ください。



## 正式に「登録博物館」として認められました！



文化庁から付与された「登録博物館等マーク」のプレート

「博物館法」という法律があるのをご存じでしょうか？博物館法は、昭和26（1951）年に、「博物館」設置と運営の在り方を示すことで博物館の機能の整備と充実を図るために制定されました。この博物館法における「博物館」は、歴史資料、美術品、自然史資料などの資料の収集・保管、展示、資料の調査研究、教育普及活動やレクリエーションに資するために必要な事業等を行うことを目的とする機関であり、この法律の規定による「登録を受けたもの」と定義されています（文化庁「博物館総合サイト」より）。

御船町恐竜博物館は平成13（2001）年からこの博物館法に基づく登録博物館として運営されてきました。令和4年の博物館法の改正に伴って登録の要件が見直されたため、再度登録の申請が必要になっていました。令和6年度に申請を行い、令和7年2月6日に正式に登録されました（熊本県公報第13407号）。熊本県内では、令和5年に開館した天草市立御所浦恐竜の島博物館に続いて2館目となります。



# 恐竜博物館の教育普及活動

## パレオプログラム

今年度の新しい学習プログラムのひとつは、「貝注目～貝の魅力を知ってるかい～」。貝殻は硬いため化石として残りやすく、御船層群からもたくさんの貝化石が発見されています。化石について調べる際には、今生きている生き物を参考にすることが多くあります。貝は現在の地球にもたくさんの種類が生息していますので、このプログラムでは今生きている貝をもとに貝殻のつくりを調べながら、貝化石の見分け方を学びました。



“貝合わせ”で遊びながら、ぴったり合う貝殻と合わない貝殻がある理由を考えます。



貝殻をよく観察してスケッチをしました。



貝殻をライトの上のせると…何やら光る線が見えますね？！

## わくわく体験教室

今年度のわくわく体験教室も、毎月第2・第4土曜日の10時～、13時～、15時～の3回に分けて、合計で13種類(24回)の体験を実施しました。参加された方からは、「体験やお話の面白さ」に加え、子どもたちの「古生物への興味・関心の高まり」や「色ぬり、工作力などの向上」といった声をお寄せいただき、私たちスタッフも、大変うれしく感じています。

より快適に体験していただけるよう、「紙粘土でアンモナイトづくり」に使用する型の新調や、作り方を説明するビデオの一部追加などを行いました。また、体験前に提供しているお話の中では、恐竜の歯の拡大模型やアンモナイトの実物化石を用い、実際に見て、触って、感じてもらえるような機会を設けました。

「わくわく体験教室ポイントカード」も好評で、参加5回目の「博物館オリジナルシール」、10回目の「古生物に関連した記念品」をたくさんの方がゲットされました。ちなみに、記念品の中で一番人気があったものは、アンモナイトの化石でした。

「わくわく体験教室」の様子は当館のFacebookでも紹介していますので、ぜひご覧ください。



「紙粘土でアンモナイトづくり」



「恐竜の時計づくり」



令和7年2月9日、「恐竜じゃなくても楽しい御船層群の古生物学」と題し、池上直樹主任学芸員によるセミナーを開催しました。御船層群の成り立ちやこれまでに発見された化石、まだわかっていないこと等について、写真やイラスト等を交えながら解説しました。その後、常設展示室 B ゾーン「白亜紀の御船」に移動し、展示されている化石

を観察しながら学びをさらに深めていきました。

当館では、御船層群から採掘した岩石を日々クリーニングし、化石を取り出しています。今後、一体どんな化石が見つかるのでしょうか？新しい発見があった際にはお知らせしますので、楽しみにしてくださいね。



いよいよセミナーが始まります。



常設展示室で化石を観察し、学びを深めました。

## 博物館の教育活動

行事名称	実施回数	延べ参加人数・対応人数
個人・家族向け学習支援活動※1	57件	1,906人
教育機関・各種団体への学習支援活動 (館内での体験 / 学習活動、講話等)	134件	4,023人
アウトリーチ活動 (出前授業、セミナー講師、化石採集、出張イベント等)	45件	1,973人
ICTを活用した学習支援活動※2	7件	194人
実習・研修対応※3	15件	137人

※1: (内訳) わくわく体験教室: 24件 (1,299人)、パレオプログラム・パレオアドベンチャー: 12件 (413人)、ジオスクール: 7件 (134人)、ジオセミナー: 2件 (44人)、ジュニアキュレーター養成講座: 6件 (8人)、プリパレーター養成講座: 6件 (8人)

※2: (内訳) 遠隔授業・講座: 6件 (164人)、オンラインイベント: 1件 (30人)

※3: (内訳) 博物館実習: 1件 (6人)、教職員研修: 3件 (36人)、視察: 11件 (95人)

## 学校教育との関わり

理科や生活科、総合的な学習の時間の一環などで、御船町内の小学校がお話を聞きに来てくれることがあります。当館は、平成10年4月に開館してから26年が経ちました。子どもたちは、生まれたときから身近な所に博物館があります。そんな子どもたちに「恐竜の化石は、

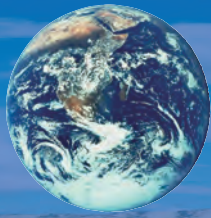
日本のどこでも見つかるわけではない」というお話をすると、とても驚きます。自分たちが住む町で見つかる化石やその意義について知ってもらうことで、御船町恐竜博物館を、そして御船町をもっともっと好きになってもらえたらと思いながら、日々教育活動を行っています。



平成10年4月に開館した旧館



平成26年4月に開館した新館



篠山層群は、兵庫県丹波篠山市の篠山盆地と丹波市山南町に分布する前期白亜紀、約1億1200万年前～1億600万年前の地層です。全体で約1000メートルの厚さがあり、大山下層と沢田層に区分されています。熊本県の日奈久層の上部や八代層とほぼ同じ年代の地層です。

大山下層は、礫岩、砂岩、泥岩に凝灰岩層をはさみ、沢田層は、安山岩質の火砕岩と砂岩、泥岩層からなっています。このような地層の特徴から、篠山層群は、小石が堆積するような河川から、流れがゆるやかで蛇行する河川の環境で堆積したと考えられています。また、泥岩層の特徴から、雨期と乾期がある半乾燥気候だったと推定されています。

篠山層群では、2006年のタンパティタニスの肋骨化石発見以降、兵庫県立人と自然の博物館が中心となって調査が行われています。2006年以降、6地点で調査が実施されており、今のところ、5万4千点を超える化石が採集されています。

### 篠山層群の脊椎動物化石

篠山層群での脊椎動物化石の調査は、産地の状況に合わせて、化石の保存状態を確認する「試掘」、対象となる化石を掘り上げる「発掘調査」、岩石の中に含まれる化石を確認し選別する「石割調査」など、系統的に実施されています。調査には、博物館の研究者だけでなく、地域のボランティアの参加もあり、地域の化石を調べる人材の育成にも貢献しています。

### タンパティタニス

タンパティタニスは、原始的なティタノサウルス形類の恐竜です。全長は15メートルに達し、植物を食べていたと考えられています。胴体から尾の背骨や肋骨などが一部つながった状態で見つかり、骨盤の一部、歯や下顎骨、脳函も発見されています。特に脳函、尾の背骨の突起、尾の下にある骨（血道弓）などに特徴があり、新種であることがわかりました。中国山東省で発見されているエウヘロプスに似ていて、**東アジア固有のエウヘロプス科の恐竜だと考えられています。**復元全身骨格は、丹波市立たんば恐竜博物館に展示され、**実物は、兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されています。**



篠山層群の分布地域



丹波市下滝の篠山川流域に露出する篠山層群  
タンパティタニスや恐竜の卵殻化石などが発掘されている